
白黒ノ王女 -ハッコクノオウジョ-

ういんぐ@

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白黒ノ王女 - ハッコクノオウジヨ -

【Zコード】

Z9505Y

【作者名】

うこんぐ@

【あらすじ】

昔、ヴィンデーリミアといつ元2つの王国が在りました。

ビジライト宮殿の白の国の王女、フロミア・パトリス

ティグダーク宮殿の黒の国の王女、レイビア・ディルテ

白の国と黒の国はとても仲が悪く、

隣同士に在りました。

あれ、一体、どうなることでしょうか…。

1ページ目 - Proof - (前書き)

- Attention -

- ・あまり好ましくない言葉遣い等があるかもしません。
- ・苦情、中傷等は受け付けません。迷惑となります。
- 以上の方々が守れない方、常識がなっていない方は、お引き取り願います。
- 尚、投稿した小説に誤字・脱字等がありましたら、ご報告して頂けると幸いです。

昔、昔の、そのまた昔。

ヴィインゲトーリニアといつ国に
2つの王国があつました。

1つは白の国。

そこは、建物も、服装も、何もかもが真っ白なのです。
ビジライト宮殿の白の王女の名を、
フロミア・パトリスといいました。

そして、もう1つは黒の国。

そこは、建物も、服装も、何もかもが真っ黒なのです。
ティグダーク宮殿の黒の王女の名を、
レイビア・デイルテといいました。

隣同士にあるこの2つの国は、
とても仲が悪いのです。

さてさて、この2つの国は
これがどうなることでしょうか……。

宜しければ」感想を。
泣いて喜びます。

白の国、ビジューイー宮殿にて――

王女フローリアは『氣』がたつていた。

「ああっ――腹立たしいわ――！ なんで黒の国なんてあるのかしり――。私がこの国――いえ、このヴィンテーラニアを手に入れてみせるわ――！」

そのためには……あの黒の国は私のヴィンテーラニアに必要なこの――！」

フローリアはやがて近づいて、近くで面元の兵士を呼んだ。

「わよっと、わいの兵士――！」

すると、

「せこつ――なんでしょうか、フローリア様――！」

兵士はフローリアの近くに来て跪き、勢い良く返事をした。

「お前達――」

ここまで言つて、フローリアは息を吸つた。

そして、誰しもが耳を疑つような言葉を口にした。

「これから黒の国を潰せ。」

兵士は呆然としていた。

「つづ……フローリア様、今なんとおっしゃったのですか？」

兵士はもう一度、フロミアの発言を聞いたとした。

が、

「煩いっ！…何度も言わせないでっ！」

これは、フロミア王女の命令よ！…
と、あっけなく遮られてしまった。

「はっ！…申し訳御座いません！」

只今、ピオワーナ様にご相談し、準備を致します…！…
そう言って、兵士はその場を立ち去った。

「なんでわざわざ、ピオワーナの許可が必要なのかしら…。」

ピオワーナ・ヘラビダ…ビジライト宮殿の大臣。

大臣って偉い人らしいけど、

私は良く分かんないし、関係ないし、興味ないけど。

「…黒の国の王女、レイビアか…。」

フロミアは一人、静かに呟く。

「まあ、私にはアッシュがどうなるつと…

関係ないけどね。」

そう言ったフロミアの言に、

光はなかつたー。

なんだかんだ2～3時間位は経つたかしら…。
全く、遅いわね。あの兵は何してるのよ。

全く、遅いわね。あの兵は何してるのよ

黒の国撲滅運動のシナリオは完璧(?)に出来てるのに、
ここで止まつたら意味が無くなつちやうじやない。
ピオワーナぐらうなんとかしなさこよーーー。

「はあ…。」

フローリアは落ち着きなく、王座の周りを回っている。その後回るのを止め、席についた。

そして、声を張り上げた。

「……………遅……………いつ……………！……………イライラする……………！」

「なんなの？なんなの！？」と、ブツブツ言つては、白いウエーブのかかつた長い髪の毛をいじつたり、貧乏振り繰り返した。

トントンヒビ、ドアをノックする音が聞こえた。

「ピオワーナ様、フロミア王女から…」

此書が書いたる事は、必ず其の所産の事なり。

田女から ? とハモ お入になさレ

少し低い声が扉の奥から聞こえて来る

兵士はその場で返事をした後、扉を開けた。

ガチヤ。

「で、用件はなんかい？」

と、ピオワーナは兵士に質問した。

「フロミア王女から

ピオワーナ様にお言葉をお預かりしております。」

「…？王女から僕に？何だろ？」

また、ろくでもない内容だろ？なあ。

と、思つたが一応、内容を聞いてみる」と云ふした。

「…で、その内容は？」

そつ尋ねると兵士は、

「実は…フロミア王女が…

黒の国を潰そうとしております。」

兵士は恐ろしそうに答えた。

すると、ピオワーナの蒼い目が細くなつた。

「ハハハ…なんか、王女が考えそなことだね。」

少し笑つた後、ピオワーナは答えた。

「いいよ。僕が許可しよう。」

兵士は少し固まつたが、「…はっ！フロミア王女に御報告致します！」と、言つて出て行つてしまつた。

ピオワーナは席から立ち、窓を開けた。

顔や体に涼しい風が当たり、黄色のロングストレートの髪の毛がなびく。

そして、窓の外を眺めながら呟く。

「王女も面白ことを考えるね…。」

「……………」

その頃、フロミアは――

「……………といふことです。」

兵士が、許可が降りたことをフロミアに伝えた。すると、フロミアは「本当に…じゃあ決まりね…」と、言つていた。

でも、兵士には一つの疑問があった。

「でも潰すと言つてもどうするのですか？」

と兵士が尋ねた。

するとフロミアは、

「そんなの決まつてるでしょ」

黒ノ国二爆弾ヲ落トス。

と――。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9505y/>

白黒ノ王女 -ハッコクノオウジヨ-

2011年11月29日23時48分発行